

2019年3月期 決算説明会 質疑応答

(回答者)

代表取締役社長 櫻井昭彦

取締役常務執行役員 営業統括本部長 高橋正憲

<質問1>

東京証券取引所の市場区分見直しに関して、貴社の考えをお聞かせください。

<回答1>

(櫻井)

現在、東証一部の上場基準の見直しが課題となり、時価総額500億円や250億円の基準が囁かれています。当社は、昭和36年に東証一部に上場して以来約60年近く経ちます。

当社としては、何としても一部上場を継続して参りたいと強く考えております。

このためには、業績の向上に加えて、当社のような様々な情報を分かりやすく発信し、株主様を含めステークホルダーの皆様方に、これまで以上のご関心を頂き、株価の上昇に繋がるように努めて参る所存です。

当社を同業他社に見劣りしない株主様への還元ができる会社になりたいと思っています。

本日もご出席の機関投資家の皆様には、衷心よりご指導並びにご協力賜りたくお願い申し上げます。

<質問2>

①2019年3月期の期首予想：売上高1,750億円、営業利益31億円に対し、実績：売上高1,571億円、営業利益21億円の差異（減収減益）となった主な要因について教えてください。

②2020年3月期の予想：売上高1,350億円（前期比14.1%減）、営業利益24億円（前期比13.3%増）の減収増益となる主な要因について教えてください。

また、前期（2019年3月期）にリチウムイオン電池用関連設備の期ずれがあるのであれば、現進行期（2020年3月期）は増収予想になるのではないのでしょうか。

<回答2>

(高橋)

①2019年3月期の期首予想と実績の差異要因に関しまして、売上高は主には中国向け輸出商談でありますリチウムイオン電池用関連設備の期ずれによります。営業利益の差異も、主にはリチウムイオン電池用関連設備によるものであり、中国政府の補助金の打ち切り等が影響いたしました。また、その他、素材・計測事業や化学・エネルギー事業においても、期首予想との差異がございました。

②前期（2019年3月期）のリチウムイオン電池用関連設備の期ずれが現進行期（2020年3月期）に全て売上計上されるという訳ではなく、翌年（2021年3月期）以降に売上計上される部分もあるため、必ずしも期ずれにより現進行期（2020年3月期）が増収になる訳ではございません。

（櫻井）

②補足説明いたします。

現進行期（2020年3月期）の売上高予想につきましては、産業機械事業、グローバル事業では前期（2019年3月期）を上回る増収ではあるものの、大型の発電設備を取り扱っている電力事業、化学・エネルギー事業では減収となり、トータルで減収となります。

化学・エネルギー事業は、前期（2019年3月期）、石油会社向けの大型案件があったものの、現進行期（2020年3月期）はこれを埋める大口の受渡案件はありません。

一方、営業利益の予想につきましては、電力事業および化学・エネルギー事業は増収見込み、産業機械事業およびグローバル事業は減収見込みで、トータルでは増益を見込んでおります。

電力事業および化学・エネルギー事業は、大型案件は見当たらないものの、高収益案件であるアフターサービス等により増益の見込みとなります。

産業機械事業は、前期（2019年3月期）のリチウムイオン電池用関連設備の期ずれ分が全てが現進行期（2020年3月期）に受渡されるということにはなりません。

また、中国のリチウムイオン電池は、2017年から市場が活況になっていましたが、現在は若干足踏み状況にあり、客先が少し設備導入を調整している状況であります。そのため、現進行期（2020年3月期）から来年度（2021年3月期）にかけて、暫時、設備が受渡されることとなります。

なお、リチウムイオン電池用関連設備が産業機械事業のセグメント利益に影響していますが、同事業では食品、繊維、包装用フィルム等の案件が収益を押し上げております。

グローバル事業は、売上高については、前期（2019年3月期）業績不振の海外子会社の業績が若干改善することから増収の見込みです。一方、セグメント利益は、Tsurumi(Europe)GmbH、Seika Sangyo GmbH、Seika Machinery Inc.の欧米子会社は前期（2019年3月期）好調でしたが、現進行期（2020年3月期）は前期（2019年3月期）並みの予想とは言えませので、減収の見込みとなります。

<質問3>

①2019年3月期の受注残高1,600億円、2020年3月期の受注高予想1,840億円であるのに、2020年3月期の売上高予想1,350億円は保守的ではないか。

②2020年3月期の受注残高予想2,090億円に関し、2021年3月期以降の売上高への反映について教えてください。

<回答 3>

(櫻井)

①当社の受注につきましては、電力に係る大型発電設備等の案件を抱え、これが受注残になっております。また、その他の大口受注案件でありますリチウムイオン電池用関連設備商談に関しては、全体的に中国ビジネスを慎重に考えており、業績予想に大きく反映はしていない為、堅めに見積もっております。

②受注残の売上反映につきましては、大型の発電設備関係がいかに受渡され売上計上に繋がるかによります。

2020年3月期の受注残高予想の中には、電力事業、化学・エネルギー事業を中心に大口の受注案件が多く残っております。電力会社向け大型の改修工事案件、鉄鋼・化学会社向けの発電設備案件等があり、2021年3月期以降、逐次受渡される予定となっております。確実に設備等を受渡し、これが会社の決算にプラスに影響していきます。

受注残高は、会社の財産が増えていると認識しております。

以上

(将来の予測に関する注意事項)

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、もしくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。